



<成果>

- 「2100年の食事」を前時で考えさせることで、消費者としての視点をもたせることができた。
- 自分の好きなメニューのランキングから、輸入品のみと国産品のみとを比べることで、食料自給率について多様な視点で考えることができた。
- 身近な給食を話題にすることで、自分事として考えられるようになっていた。
- 提示資料は、グラフだけでなく、イラストを用いることで、より印象的になった。

<本時の様子>

社会的事象を自分事として捉えられるような授業

100年後の食事って、
どうなっているのだろう。
昆虫食？ゼリーとか？



<課題>

- 提示する資料が多かったため、視点が広がりすぎてしまった。
- 問題意識をもって取り組むことができるのはよいが、答えにたどり着かない場合もある。その場合の対応も考えておくとよい。

国産の物をみんな買えばいいのに！

でも国産の物って、輸入品に比べると倍の値段なんだね...

なんで日本ってこんなに食料自給率が低いのか？
逆にカナダが260%って
どういうこと？

国産を買おうと、言うのは簡単だが、実際には値段や手軽さなどを考えると、難しいものである。食料自給率に関する問題を、消費者や生産者など、様々な立場から考えさせた。

